



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



●イソギンチャクだらけ

ーミミズクガニー

去年も、さまざまな生き物の姿を見て
おどろ驚かされましたが、今回は、その一つを
ご紹介します。

去年の3月28日、谷口研究員が海から
妙なものを持ち帰ってきました。一見す
るとイソギンチャクのかたまりなのですが、
じっと見ていると、のそのそ動き始
めたのです。驚いてひっくり返してみ
ると、脚が4本伸びていますし、ぴよこん
と目がつき出ています。どうやら背中一
面をイソギンチャクに覆われたカニの仲
間です。見たことのない種類だったので、
少し調べてみました。

このカニは、脚が細長く、はさみは小
さく、甲らは三角形をしていて、動きは
ゆっくりです。これらは、クモガニの仲
間の^{とくちょう}特徴です。また、はさみには、茶色

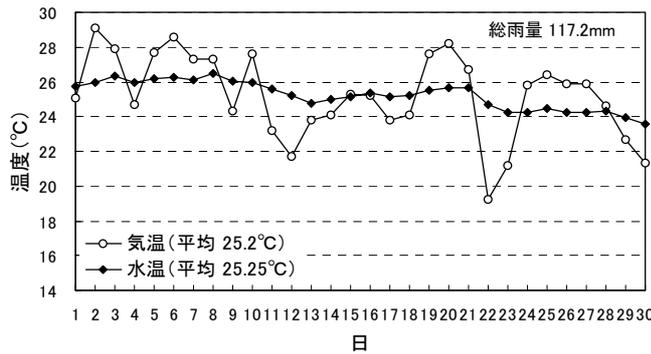
いたくさんの点々が、脚には茶色や黒色
のしま模様がありました。図鑑を調べて
みても、なかなか名前がわからなかつた
のですが、この前、ようやく新しい図鑑
の中にこのカニを発見しました。どうや
ら「ミミズクガニ」というのが、このカ
ニの名前のようです。

観察したミミズクガニの甲らの幅は約
2cmで、その上に付いていたものを、きち
んと観察してみると、それはイソギンチ
ャクではなく、イソギンチャクモドキと
いう別の仲間でした（イソギンチャクモ
ドキは、イソギンチャクとサンゴの中間
のような動物です。阿嘉島のまわりにも
何種類かいますから、いつかまた紹介す
ることにします）。直径1.5~3cmのイソ
ギンチャクモドキ7個体で甲らを覆いつ
くしています。また、脚にも、小さなイ
ソギンチャクモドキが3個体、それから
スナギンチャク（これもイソギンチャク
に似ていますが、別のグループの動物で
す）が18個体もくっついていました。

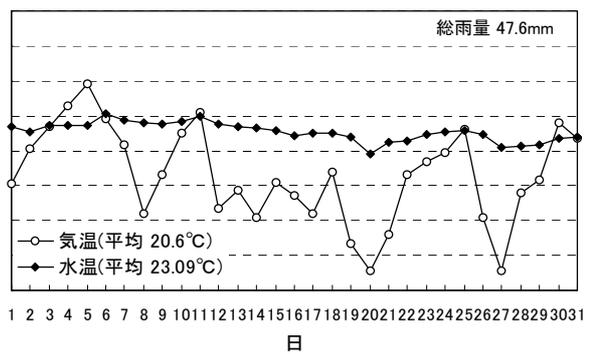
クモガニの仲間には、以前アムスルだ
より（No.56）で紹介したモクズシヨイが
います。このモクズシヨイは、カイメン
や海藻などを甲らに生えた小さなかぎ状
の毛にひっかけて、身をかくしているカ
ニです。このように、クモガニの仲間
には、体にゴミや他の生き物をつけて、カ
ムフラージュしているものがたくさんい

定点観測

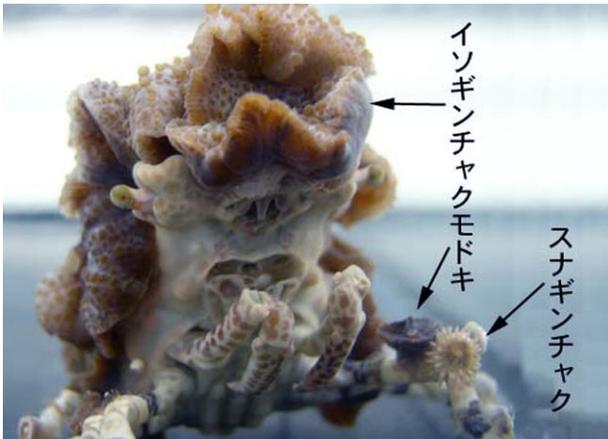
2003年11月



2003年12月



るのですが、このミミズクガニもきっとその中の一つで、イソギンチャクモドキに覆われることによって、外敵から見つけられないようにしているのだと思います。



ただ、モクズシヨイが毛にカイメンなどを引っかけているのに対して、ミミズクガニのイソギンチャクは、どうもカニの甲らにきちんとはり付いているように見えます。カニは、脱皮をしながら成長する動物ですが、では、ミミズクガニは脱皮の時、甲らのイソギンチャクモドキや脚のスナギンチャクをどうするのでしょうか。イソギンチャクモドキもスナギンチャクも、イソギンチャクと違って、一度付いているものからはがされると、次はなかなかくっつきません。脱皮をしてしばらくは裸のままなののでしょうか。実は、その後マジャノハマでいくつかのミミズクガニを見つけて、そのうちの1個体を飼育していたところ、脱皮をしました。それに気がついたのは脱皮から1週

間くらいたってからなのですが、すでに甲らや脚の上にはイソギンチャクモドキとスナギンチャクをたくさんつけていました。そして、抜け殻の方には、ほとんどそれらは残っていませんでした。つまり、脱皮した後にのせかえたのです。どうやって、はがしたり、くっつけたりするのでしょうか。その現場を見てみたいのですが、残念ながらそのミミズクガニは死んでしまい、その後は海でも見つかっていません。もし、みなさんが海でミミズクガニを見つけたら、ぜひ教えて下さい。

● 阿嘉島の海より

みなさん、明けましておめでとうございます。忘年会、お正月、新年会とイベントが続き、ご馳走の食べ過ぎ、お酒の飲み過ぎで体重が増えてしまった人もいるのではないのでしょうか。

この冬は今のところあたたかい日が多くて過ごしやすいですが、冬本番はこれからです。海水温もお正月頃は22度以上ありましたが、これから2月にかけてさらに2度は下がります。昨年末から鯨もやってきているようです。

それでは今年も一年、阿嘉島臨海研究所をよろしく願いいたします。

